

1-7

自主グループ作りへの挑戦

地域支援事業卒業利用者の自主グループ活動の実践

自主グループ

自立支援と介護予防

桜町高齢者在宅サービスセンター

社会福祉士 鎌田頼子

東京都小金井市桜町1-9-5

作業療法士 石井晴美

他、センター職員一同

TEL : 042-381-0006

E-mail sakuramachi.sc@silk.plala.or.jp

FAX : 042-387-2324

URL

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人聖ヨハネ会が1990年に開設した併設型のセンター(通所系利用者約60名/日の規模)。通所介護、訪問介護、訪問入浴、居宅介護支援の介護保険事業と地域包括支援センター、地域支援関連事業を小金井市から受託実施している。

〈取り組んだ課題〉

- 介護予防施策に一定期間参加し、状態が改善した利用者の機能維持を目指し、自主グループの立ち上げと支援に取り組んだ。
- 自主グループを作るために必要な機能訓練の内容を検討し、卒業を前提として、地域での自主活動につながるような訓練内容を形作っていった。
- 自主グループの活動の場、安全と継続性の確保、活動内容と時間、評価方法と期間などを検討した。

〈具体的な取り組み〉

- 介護認定されていない利用者を、ただ訓練継続していくことは介護予防の趣旨から離れていくと考え、平成15年から徐々に一定期間(半年~1年)を区切り、卒業を前提にした事業内容を組んでいった。
- 地域支援事業の目標を、以下の4点とし、その目標を達成する評価、訓練内容、訓練方法を実施した。
 - ① 運動器の向上 ② 精神面の向上
 - ③ 社会参加や他人との交流面の向上
 - ④ 介護予防方法の理解と自立面の向上
- 終了月には、自主グループの活動実習を行った。
- 体操を音楽と共に録音テープに収録、活動マニュアルや運動マニュアルを作成した。
- 平成17年4月、前年度卒業者による自主グループを、高齢者住宅の集会室を借りて開始した。
- 加齢とともに衰えていくという高齢者の状況を考慮し、見守りと事務管理役として1名の相談員を配置。
- 心身状態の継続的把握のため「お楽しみ測定」というセンター独自の測定を活用、作業療法士による評価を年2回実施し、月2回、各2時間程度の自主グループ活動を支援している。

〈活動の成果と評価〉

- 国や都に先行して、自主グループを立ち上げ、継続させてきたことで、高齢者の介護予防システム作りの地域への布石となっている。
- 通所型介護予防事業利用者が、あまり不安なく卒業し、地域で仲間と共に安心して継続的に介護予防に取り組める。
- 平成17年4月立ち上げ時、9人の利用者であったが、その後の機能訓練事業の卒業者を加え、平成18年度当初は11人であった。
- 内、2人が病気の悪化で要支援となり退会、平成19年度当初は新たに4人を加え、13人となった。更に、7月から2人の地域支援事業卒業者が加わっている。
- 継続している利用者の心身機能は良く維持されており、向上している利用者もいる。その時々体調で低下しても、「お楽しみ測定」を目安に、自分の弱い部分を意識し、再訓練に自主的に取り組んでいる。
- 最初の自主グループの成功により、平成18年4月には、同様の内容の自主グループを公民館に立ち上げることができた。当初、6人で出発し、昨年度卒業者7人を加え、平成19年度当初は13人となった。10月から更にもう一つ立ち上げる予定である。

〈今後の課題〉

- 昨年度から自主グループ活動にも、市からの補助が少し出るようになったが、事業所のサービスの部分が多く、職員配置の工夫や支援ボランティアの育成、利用者さんたちの更なる自主化の方法を検討している。